

MACF 礼拝説教要旨

2023年10月22日

「バラバとキリスト」

マタイによる福音書 27章 15-26節

15 ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することになっていた。

16 そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。

17 ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。

バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」

18 人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。

19 一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があった。

「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」

20 しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。

21 そこで、総督が、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、「バラバを」と言った。

22 ピラトが、「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、

皆は、「十字架につけろ」と言った。

23 ピラトは、「いったいどんな悪事を働いたというのか」と言ったが、群衆はますます激しく、

「十字架につけろ」と叫び続けた。

24 ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなを見て、

水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。

お前たちの問題だ。」

25 民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」

26 そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

* * * *

バラバはイエスに代わって釈放された犯罪人ですが、いくつかの興味深い内容が隠されています。

その名前について

(1) バラバというのは、本当の名前ではなく、あだ名です。「バル(息子)」と「アバ(父)」という2つの語からできた合成語で、「父の息子」という意味になります。

イエスは、「父なる神の子」としてのその名の通り、実質を持ったお方でしたが、バラバは、名目だけの「父の息子」でした。

(2) バラバの本名はイエスであったことが分かっています。イエスはヘブル語で「イエシュア」です。イエスは、「イエシュア(主は救い)」としての実質を持ったお方でしたが、バラバは、名目だけの「イエシュア」でした。

(3) イエスは無実の罪で告発されていましたが、バラバはイエスが告発されている罪そのものを犯した罪人でした。

バラバは単なる強盗ではありません。彼は人殺しであり、ローマに対する反逆者です。

イエスはこのバラバのために身代わりの死を遂げることになります。

イエス様のおかげで「父なる神の家族に登録され、神の子」と呼ばれる私たちの実態はどうでしょう？

バラバは名ばかりの「神の子」であり、名ばかりの「イエス」「神は救う」という存在でした。

実際は救世主のつもりで暴動を引き起こそうとし、人を殺し、実際は強盗でした。

彼には死刑が確定しており、十字架は本来バラバが受けるべき刑罰でした。

でも、イエス様は彼のいのちの身代わりに十字架に向かいました。

この身がわりは偶然のように見えますが、イエス様の十字架の意味を明確にわたしたちに教えています。

罪なき救い主が、罪あるものに代わって十字架で苦しみを受け、死なれました。

4) イエス様を殺した責任は我々の上にかかっても良いと豪語する無知と無謀

24 ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題だ。」

25 民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」

さらには、このどうしようもなく無知な、扇動された群衆たちの「責任発言」ですがこの責任を彼らの上になおさせることなく、イエス様は十字架で死なれました。

* * *

MACF 礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/qCZgpeXsgwg>